

先輩を訪ねて

プロフェッショナルの履歴書



リオデジャネイロオリンピック
レスリング男子フリースタイル 74キロ級日本代表
ALSOK所属

たかたに そうすけ
高谷 惣亮さん
(政経学部2012年卒)

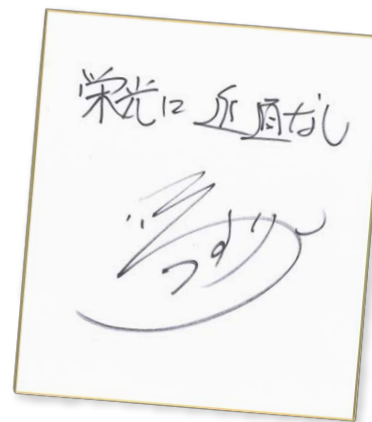
Profile Souseuke Takatani

2013年、ALSOKに入社。2014年の世界選手権では銀メダルを獲得した。今年3月のリオデジャネイロオリンピックアジア予選では決勝進出を果たし、2012年ロンドンオリンピックに続いて2大会連続での出場を決めた。フリースタイル74キロ級。

photo by AFLO SPORT

リオオリンピック出場!

必殺技は 高速タックル



挫折を乗り越えたからこそ今の強さがある。オリンピックでの活躍が期待されます!

▶ 究極のプラス思考でケガを好機に変えた

今年3月に行なわれたリオデジャネイロオリンピック アジア予選で銀メダルを獲得し、2大会連続で出場を決めることができました。一番重要であった試合は4年前に同じアジア予選の決勝で負けたRashid Kurbanov選手(ウズベキスタン)との準決勝。過去にはアジア王者になったこともある相手ですから、確かな強さを感じましたが、攻撃も防御も自分の納得するレスリングをして勝つことができました。その試合でリオ行きを決めたのですが、4年前よりも確実に強くなっている自分を実感できたのが一番の収穫でした。

実はこのアジア予選に向けて良い感じでコンディションを上げていた大会3週間前、練習で右膝の靭帯を損傷してしまいました。医師からは全治3週間と言われ、ほとんど練習しないまま、ぶっつけ本番で臨むしかありませんでした。不安はありましたが、これまで積み上げてきたものを全て出して戦おうと心に決めました。そして、もしケガが悪化してリオに行くことができなかつた時には、引退しよう。それくらいの強い気持ちで臨んだ結果が、代表獲得につながりました。

▶ ロンドンへと導いた恩師からの言葉

僕は今、何事もポジティブに考えています。アジア予選直前のケガも、「これは良い機会だ」と思いました。なぜなら、休むことを怖がって、つついオーバーワーク気味になることが多い自分にとっては、良い休養になると思ったからです。

大学入学前は、あまりポジティブに考えられないタイプでした。しかし大学に入って、レスリング部部長の西口茂樹先生(日本レスリング協会男子グレコローマン強化委員長)やチームメイトと話をすることで、改めて自分のポテンシャルの高さに気づくことができました。特にタックルについては先生から「超一流」と言ってもらい、自分でも絶対的な自信を持つことができました。そういう中でメンタルもどんどん強くなり、発言もポジティブになっていきました。

西口先生には最も信頼を寄せています。大学4年間で何度も助けていただいたのですが、中でも大学3年の時の日本選手権で先生に言われた言葉は忘れられません。その年の日本選手権は、ロンドンオリンピック出場がかかった世界選手権の代表権を争う、大事な大会でした。世界選手権の代表入りまであと

1勝、という準決勝の試合中に、左足の靭帯が部分断裂したんです。もちろん、僕は試合を続行するつもりでした。しかし、西口先生の判断は途中棄権。初めはどうしても受け入れることができず、僕は泣きながら先生に「続けさせてほしい」とお願いしました。そうしたら西口先生が肩に手を置いて、こう言ったんです。「お前はここで終わる選手じゃないから安心しろ。必ずオリンピックに出られるから」と。その言葉を聞いて、「あ、そうか」と納得することができました。

結果的に、後の代表選考でロンドンオリンピックに出ることができました。あの時先生が止めてくれていなかったら、ケガが悪化してオリンピックどころか選手生命が危うくなっていたかもしれません。そう思うと、先生には感謝の気持ちしかありません。

また、須藤元気監督との出会いも、僕にとっては大きなものでした。印象に残っているのは、監督が絵を描いている時、「惣亮のレスリングは、このキャンパスの中には取まらない。フレームを超えていってしまふよな」と言ってくれたことです。僕自身、完成形を作るのではなく、常にさまざまな形に変化させていくのが自分のレスリングだと思っているので、監督にそう表現してもらえて嬉しかったです。

▶ 3種の高速タックルで狙う金メダル

僕の最大の強みはスピードです。世界にも同じレベルの選手はいますが、自分を上回るスピードを持つ選手はいません。そのスピードを活かした高速タックルが武器です。特に、「クラウチング・タックル」、「内組みタックル」、「クワガタ・タックル」の3種類を得意としています。また相手のタックル対策への対抗策として、西口先生に教えていただいた「がぶり」も得意技の一つ。上から覆い被さるようにがぶり、相手は嫌がって上体が高くなったところに素早くタックルに入る技です。自分の強みを最大限に生かして、リオデジャネイロオリンピックでは金メダルを目指して戦います。応援、よろしくお願ひします!

会社説明(所属チーム)

ALSOK

1965年設立のホームセキュリティ・オフィスセキュリティ・防犯対策を専門とする警備大手の総合警備保障会社。レスリング部や柔道部など10のクラブがあり、オリンピックや世界を目指す選手の活動をサポートしている。

先輩's自己分析

長所・短所

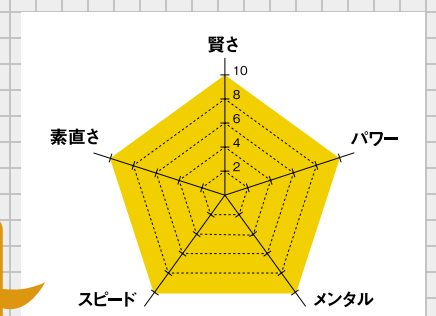
長所はいっぱいあって、選ぶのが大変ですね(笑)。レスリングの中では、やっぱりタックルのスピードには自信を持っています。世界にも同じ74キロ級で速い選手はいますが、僕も全く劣ってはいないと思っています。短所は思いつかないです(笑)。

1日の練習

基本的には1日2部練習を行っています。朝は7時に大学の道場に来て、1時間ほどランニングやウエイトなど基礎トレーニング。また夕方5時に来て、学生と一緒に約2時間マット練習をします。

レスリングに重要な能力がこの5つだと思います。リオオリンピックの前にすべて完璧な仕上がりがりです!

現在の実力バランス



About レスリング

男子は、腰から下の攻防が禁じられ、上半身の攻防のみで戦う「グレコローマンスタイル」と、全身への攻防が認められている「フリースタイル」との2種類があり、女子は「フリースタイル」のみ。直径9mの円形マット内で1対1で組み合い、攻防が展開される。試合時間は3分間2ピリオド制で、トータルポイントによって勝敗が決まる。近代オリンピックでは1896年第1回アテネ大会から正式種目として採用されている(女子は2004年アテネ大会から採用)。